

推薦の辞

小児専門病院以外の検査担当者にとって小児の検査は成人のルーチンとは異なり、疾患が多彩なことや、特別な観察ポイントが存在すること、患児の協力が得られないことがあるなど、困難な点が多く敬遠されがちなのではないでしょうか。小児領域の画像診断において、超音波の担う役割は大きく非常にやりがいのある領域です。施設によっては超音波を施行できないがゆえに、侵襲的なその他の検査が行われることもあり、このような状況から子供達を守る点でも超音波は重要です。検査自体の難易度は体格の面で成人よりも観察し易いですし、普段から検査依頼医とよくコミュニケーションを取って、検査目的や評価項目を確認しておけば、効率よく取り逃しのない検査が出来るようになりますので、敬遠せず積極的に検査に関わっていただきたいと思います。また、これは検査担当医が主治医と異なる場合のことでありますが、検査オーダー上の情報だけではわかりにくい検査目的は、積極的に担当医師に確認することがお互いに不足のない検査結果を得るコツであると考えます。その上でそれぞれの検査方法と関連する病態を知ることが重要です。本書は、まさにその際に参照すべき本として最適です。本書の特徴の一つとして、実践的な検査方法の解説が充実している点があります。各部位または疾患に応じた検査方法を、イラストを多く使ってわかりやすく解説されていますので、初めて当該領域の検査を行う場合でも効率よくポイントを抑えた検査を行うのに役立ちます。また、Pointの部位では臨床所見上のピットフォールや、知識のメモに加え、検査時のコツも紹介されていますので、記憶の片隅にとどめておくと、ある日、実臨床で唐突に役に立つ場面があるでしょう。検査室などに置かれて、検査前の予習や、検査の合間の読本としてご利用いただけるとよろしいかと思えます。

2019年2月

藤川 あつ子

聖マリアンナ医科大学 放射線医学講座